



実践クラブ
もりぞの こうたろう
森園 浩太郎 議員

島原市の観光振興

Q インバウンドマーケティングで来島される外国人観光客数は？

A 令和5年1～10月までの延べ宿泊者数は約3千人。コロナ禍前の平成31年は約4500人。

Q 観光庁の高付加価値なインバウンド観光地づくり事業「モデル観光地11エリア」に島原半島も選定されており、半島で協力し予算獲得に取り組んでほしい。

A 島原らしいオリジナルで外国人にヒットするようなイメージを明確にするため、指摘の事業メニューから国に支援してもらえないかプレゼンを含め申し込みたい。

島原市職員

Q 市職員数―行革大綱の適正規模368人に対して現在352人で16人の不足だが、どう捉えているか。

A 市条例定数は450人。業務も増えており、人材確保の必要から368人まで回復を目指している。

Q 早期退職の理由―分析、調査、聞き取りをしているのか。

A 近年の早期退職の理由は、転職等の自己都合や家庭の事情等が主なもの。面談して状況を確認している。

Q ①自己申告は希望を聞き入れているか。

A ②アイデア募集の状況―採用されると本人が取り組まなければならず、言い出せない。手分けしたり、評価を上げる取組が必要だと思うが？

A ①毎年、自己申告書を提出させている。配置については本人の希望、在籍年数などを考慮している。今後本人の能力が十分発揮できるよう適材適所の配置に努めたい。

②平成14年度から職員政策提案を実施。実績を上げた職員には何かインセンティブをつけてあげれば、やりがいにつながると思う。

公共交通機関

Q ①たしる号は福祉の観点か、公共交通機関の代替手段か。

A ②コミュニティバスを雲仙市や南島原市と連携してはどうか。

A ①福祉だけのためにと区切ることは非常に難しい。
②制度の違いがあり、市域をまたいでの連携にはまだ課題がある。

【その他の質問項目】

◇島原鉄道の現状について、利用者や観光振興への影響は？

◇ライドシェア



庶民の会
はやしだ つとむ
林田 勉 議員

有明「舞岳山荘」を賑わいのある場所へ！

Q 近年の利用者収入や年間維持費はどれくらいかかっているのか。

A 宿泊者は直近10年では平成29年度の2784人が最多。コロナ禍前5年間の平均宿泊数は約2500人。コロナ禍前の収入は年間300万円だったが、令和2年度60万円、3年度83万円、4年度は回復傾向で206万円だが、維持費は年間トータルで約1500万円かかっている。

Q 今後の施設の利活用・拡充に向けて付加価値を付けて人を呼び込む手法へ転換すべきと思うが。

A 本年度から開設したキャンプ場は好評である。企業による活用も進めていきたい。

Q 更にもっと賑わいのある場所へ変える検討をすべき。市内学校の利用や光回線の活用や自然を生かしたアーバンスポーツ（スケボー・自転車・モトクロスなど）の場所としての活用はどうか。

A 都会から見ると自然を感じられる場所なので、魅力ある施設へ民間がどのような絵を描けるか、周辺を含め基本的な検討をしているので

は。指定管理、民間活力を考える中でリニューアルして事業をやる時はトイレや外壁の改修が必要。

「島原ゼロカーボンシティ宣言」まずは公用車入替え時、数台でもEV車（電気自動車）を導入すべきではないか？

Q 島原市の公用車の所有、入替え状況について。

A 公用車は156台。車両の平均使用年数は14・1年。車両の入替えは使用年数や走行距離、併せて車両の状況を見ながら、各部署で行っている。

Q 島原市もゼロカーボンシティ宣言を行っている。今後、毎年の車両入替え時には、せめて1、2台はEV車を導入すべきではないか。

A 脱炭素化社会実現へ、公用車へのEV車導入も進めていきたい。

島原城築城400年記念事業を市民の参加で盛り上げよう

Q 夜の散策、誘客はライトアップが必須だが、本市はどんな計画か。

A 天守閣のプロジェクトシンマツピングや天守閣周辺の樹木のライトアップも計画。

Q 市民参加の作るイベント、「400本の竹灯籠プロジェクト」はどうか。

A 夢のある話。市民にどう楽しんでもらうか、思い出をどうつくるかを中心に考えてみたい。